

喪中はがき 文例集（全 27 文例）

template-free.jp／喪中はがき文例集。はがきの文例は句読点を付けず、日付・年齢は漢数字で書いています。

文例 21（取引先へのメール）だけ、通常の句読点を使っています。氏名・屋号・年月は架空の例です。ご自身の内容に打ち替えて使ってください。

ここは横書きの一覧です。はがきサイズの縦書きに打ち込むときは、別ファイル「mochu_hagaki_tategaki.docx」を使ってください。

文例 1 父

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年九月に
父 山田一郎が
八十五歳にて永眠いたしました
生前に賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます

寒さに向かう折
皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 2 母

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年七月に
母 山田花子が
八十二歳にて永眠いたしました
生前に賜りましたご厚情に
厚く御礼申し上げます

皆様が健やかな新年を
お迎えになりますよう
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例3 祖父

喪中につき
年頭のご挨拶を
失礼させていただきます

本年六月に
祖父 山田太郎が
九十四歳にて永眠いたしました
ここに生前のご厚誼を深謝し
謹んでお知らせ申し上げます

皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例4 祖母

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年三月に
祖母 山田梅が
九十一歳にて永眠いたしました
生前のご厚情に感謝し
お知らせいたします

季節の変わり目
どうぞご自愛くださいませ

令和八年十一月

文例5 夫（妻から）

喪中につき
年頭のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年五月に
夫 山田健一が
五十八歳にて永眠いたしました
生前賜りましたご厚情に
心より御礼申し上げます

皆様のご健康と
よき新年をお祈り申し上げます

令和八年十一月

文例6 妻（夫から）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年二月に
妻 山田美咲が
五十四歳にて永眠いたしました
生前のご厚情に
深く感謝申し上げます

皆様にとって
穏やかな新年となりますよう
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例7 妻の父（夫婦連名・筆頭者の夫から見た続柄）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年十月に
義父 佐藤次郎が
八十八歳にて永眠いたしました
生前に賜りましたご厚情に
厚く御礼申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

注:「義父」は「岳父」とも書けます（辞書では岳父は妻の父）。夫の父が亡くなり夫婦連名で出すときは「父」と書きます。続柄を書かず「妻の父 佐藤次郎」と書く例もあります。連名のときに誰から見た続柄にするかは決まりがなく、筆頭者（先に名前を書く人）から見た続柄にする例が多いです。

文例 8 義母（妻の母・妻から見れば「母」と書く場合）

喪中につき
年頭のご挨拶を
失礼いたします

本年八月に
母 佐藤和子が
八十六歳にて永眠いたしました
生前賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます

皆様にはお健やかに
新年をお迎えくださいますよう
お祈り申し上げます

令和八年十一月

注: 差出人が妻だけの名義なら「母」と書きます。夫婦連名で筆頭者が夫なら「義母」（「岳母」とも書けます。辞書では岳母は妻の母）。氏名まで書くので、誰のことかは伝わります。

文例 9 兄（姉・弟・妹も同じ型。続柄の語だけ替える）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年四月に
兄 山田次郎が
五十一歳にて永眠いたしました
生前のご厚誼に
深く感謝申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 10 長男（子）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年一月に
長男 山田翔太が
二十六歳にて永眠いたしました
生前賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます

皆様にはどうぞ
健やかな新年をお迎えください

令和八年十一月

文例 11 叔父（一般的な範囲外・親しい間柄で出す場合）

喪中につき
年頭のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年十月に
叔父 山田三郎が
七十九歳にて永眠いたしました
生前のご厚誼に
深く感謝申し上げます

皆様のご健康を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 12 複数の方が亡くなった（父と母）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年三月に
父 山田一郎が
七月に
母 山田花子が
それぞれ永眠いたしました
生前に賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます

皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 13 家族葬で見送った（事後の知らせ）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年九月に
父 山田一郎が
八十五歳にて永眠いたしました
葬儀は家族のみで
執り行いましたため
ご連絡が行き届きませんでしたこと
お詫び申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 14 家族葬・香典を辞退する

喪中につき
年頭のご挨拶を
失礼させていただきます

本年八月に
母 山田澄子が
八十二歳にて永眠いたしました
故人の遺志により
葬儀は近親者のみで営みました
誠に勝手ながら
御香典などのご厚志は
謹んでご辞退申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 15 年賀状じまいを兼ねる（個人・親しい間柄）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年六月に
父 山田一郎が
八十五歳にて永眠いたしました
誠に勝手ながら これを機に
年始のご挨拶状は
今後控えさせていただきます
これまでのご厚情に
心より感謝申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

注: 喪中はがきで年賀状じまいを伝えることには、意見が分かれます。兼ねるケースも増えている一方で、兼ねないほうが丁寧とする解説もあります（Precious.jp 2024 年 11 月 19 日）。親しい相手には兼ねる人もいます。目上の方や取引先には、喪中はがきとは別に、年明けの寒中見舞いで伝えるほうが無難という考え方もあります。どちらかが正解というものではありません。

文例 16 亡くなったのが年の初め（時間が経っている場合）

喪中につき
年頭のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年一月に
祖母 山田ふみが
九十三歳にて永眠いたしました
早々にお知らせすべきところ
ご通知が遅れましたことを
お詫び申し上げます

皆様のご健勝を
お祈り申し上げます

令和八年十一月

文例 17 　くだけた言い方（親しい友人向け・堅苦しくしない）

喪中のため
新年のごあいさつは
控えさせていただきます

今年の五月に
父が　八十歳で
亡くなりました
生前は　大変お世話になり
ありがとうございました

寒くなりますので
どうぞお体を大切に

令和八年十一月

注: この文例も句読点は付けません。「、」の代わりに全角スペースで切っています。

文例 18 　一言を手書きで添える（空白に書く短い言葉）

- ・ 今年家族で静かに見送りました　落ち着きましたらお目にかかれれば幸いです
- ・ 近況は年が明けてから寒中見舞いでお知らせします
- ・ どうぞ寒さにお気をつけてお過ごしください

文例 19 　個人事業主（屋号を添える・取引先宛）

喪中につき
年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

本年八月に
父　山田一郎が
八十五歳にて永眠いたしました
本年中に賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます
明年も変わらぬご厚誼のほど
お願い申し上げます

令和八年十一月
山田工務店　山田和彦

注: 年末年始の営業日の案内は喪中のはぎに入れず、請求書・メール・別便で知らせます。屋号としての年始のご挨拶を喪中と関係なく通常どおり出すという考え方もあり、どちらにするかは本人が決めることです。

文例 20 経営者から取引先へ（社名の下に個人名）

喪中につき
年頭のご挨拶を
失礼させていただきます

本年六月に
母 山田千代が
八十四歳にて永眠いたしました
平素のご厚情に
深く感謝申し上げます

皆様のご健勝と
貴社のご発展を
お祈り申し上げます

令和八年十一月
株式会社〇〇 代表取締役 山田和彦

注: 個人の喪中であって会社が喪に服すわけではないと考え、会社名義の年賀状は通常どおり出し、喪中はがきは個人として付き合いのある相手にだけ個人名で出す会社もあります。肩書を添えるかどうかは任意で、どちらが正しいと決められるものではありません。

文例 21 取引先へのメール（年始のご挨拶を控える連絡）

件名: 年始のご挨拶につきまして
〇〇株式会社 〇〇様

平素よりお世話になっております。
私事で恐縮ですが、
本年九月に父が永眠いたしました。
つきましては、年頭のご挨拶を失礼させていただきます。
業務につきましては、通常どおり対応いたします。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

注: メールは通常の句読点を使います（句読点を付けないのは、はがき・書状の慣習です）。社員の家族の不幸を会社として知らせる社内向けの文書は、社内の慶弔規定に従うので、このページでは文例を出しません。

文例 22 喪中はがきをいただいた（喪中見舞いのはがき・年内）

このたびはご服喪中とのこと
存じ上げずにおりました
ご尊父様のご逝去を知り
謹んでお悔やみ申し上げます
ご家族の皆様の
お悲しみはいかばかりかと
お察しいたします
寒さに向かう折
どうぞお力を落とされませんよう
ご自愛くださいませ

令和八年十二月

注: 「ご尊父様」は相手の父の敬称です。母ならご母堂様、夫ならご主人様、妻なら奥様（ご令室様）、祖父ならご祖父様、祖母ならご祖母様に替えます。

文例 23 喪中はがきをいただいた（寒中見舞いで返事・松の内明け）

寒中お見舞い申し上げます
ご服喪中と伺い
年始のご挨拶を控えさせていただきました
ご尊父様のご逝去を知り
謹んでお悔やみ申し上げます
旧年中は大変お世話になりました
本年も変わらぬお付き合いのほど
お願い申し上げます
寒さ厳しき折
皆様のご健康を
お祈り申し上げます
令和九年一月

注:「ご尊父様」は相手の父の敬称です。母ならご母堂様、夫ならご主人様、妻なら奥様（ご令室様）、祖父ならご祖父様、祖母ならご祖母様に替えます。

文例 24 喪中と知らず年賀状を出してしまった（お詫びの寒中見舞い）

寒中お見舞い申し上げます
ご服喪中とは存じ上げず
年始のご挨拶状を差し上げましたこと
深くお詫び申し上げます
ご尊父様のご逝去を知り
謹んでお悔やみ申し上げます
ご家族の皆様の
ご健康をお祈り申し上げます
令和九年一月

注:「ご尊父様」は相手の父の敬称です。母ならご母堂様、夫ならご主人様、妻なら奥様（ご令室様）、祖父ならご祖父様、祖母ならご祖母様に替えます。

文例 25 こちらが喪中のとき年賀状をいただいた（返礼の寒中見舞い）

寒中お見舞い申し上げます
ご丁寧な年始のご挨拶を
ありがとうございました
昨年 父が永眠いたしましたので
年頭のご挨拶を控えさせていただきました
ご通知が行き届かず
失礼いたしました
本年も変わらぬご交誼のほど
お願い申し上げます
厳しい寒さが続きます
ご自愛ください
令和九年一月

文例 26 故人宛に年賀状が届いた（知らせる寒中見舞い）

寒中お見舞い申し上げます
亡き父 山田一郎宛に
ご丁寧なご挨拶を
ありがとうございました
父は昨年九月に
八十五歳にて永眠いたしました
ご通知が遅れましたことを
お詫び申し上げます
生前賜りましたご厚情に
深く感謝申し上げます
令和九年一月

文例 27 12月に亡くなり喪中はがきが間に合わなかった（寒中見舞いで知らせる）

寒中お見舞い申し上げます
昨年十二月に
母 山田清子が
永眠いたしました
喪中のため
年頭のご挨拶を失礼いたしました
お知らせが遅れましたことを
お詫び申し上げます
旧年中のご厚情に
深く感謝申し上げます
令和九年一月

※ 文例はすべて自作です。弔事の作法は地域や家によって違います。迷ったときは、受け取った相手が困らないかを基準に決めてください。